福島市市民活動サポートセンター

ふくサポ通信

2024 Summer
vol.114

https://www.f-ssc.jp

サポわん

にゃんこ隊長

にゃんこ隊長が行く！

野鳥の会ふくしま
～自然が教えてくれること ～

今回は自然保護活動を行う団体を紹介します。

「NPO法人　野鳥の会　ふくしま」は、令和4年度から「福島市　小鳥の森」の施設管理も行っています。

緑豊かな木々や足元には紫色の草花が自生しています。鳥たちのさえずりはまるで来る人を出迎えてくれるかのよう。歩き進めていくとウッドハウスのような建物が見えてきます。入口のボードには、今現在観察できる鳥を掲示しています。また、離れた場所に巣箱を設置し、フタの内側に付いている小型カメラで、巣をつくる時期からヒナが飛び立つ一連の画像等を追って観ることができます。

主な活動は、定期的な観察会や環境学習の開催、特定外来生物の駆除です。環境学習で訪れた子ども達とで一緒にザリガニなどを捕ることで駆除を行っています。

【環境学習での
ザリガニ駆除の様子】

しかし､｢生命力がとても強く撲滅までには至らない」とのことでした。在来種の住む環境を守り続ける難しさが伺えます。

環境学習では出前講座を実施し、学校等で福島の自然の魅力を伝えています。館内には子ども達からの感想がたくさん飾られていました。

他にもとてもユニークな活動を行っています。月に一度決められたお題に沿った写真を撮ると、スタッフから自然動物が描かれた缶バッチがもらえるというものです。2019年から始まり、収集していくうちに夢中になっていく人も多いのだとか。

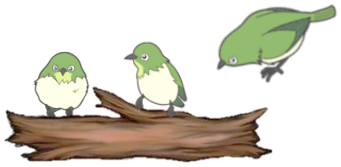
【人気の缶バッチ】

施設長の長渡さんは「自然の中で遊ぶことが楽しいという思い出は大人になっても残ります。その想いが自然を大切にしたいというもとになるのかな」と語ります。実際に子どもの頃から自然の中で時間を過ごした方が、ボランティアとして活動しているそうです。そして「私達は次世代へ向けて繋げ伝えていく事が重要だと考えています。時代によって伝え方を変えながら、軸となる想いを案内人と継続してやっていきたい。」と結びます。

取材を通して、自然との距離感をより自分事に捉えることで、環境保全に対する理解が深まると感じました。

ちなみに取材時のお題は「むらさき色の花」でした。

≪お問い合わせ先≫
福島市　小鳥の森（管理:NPO法人　野鳥の会ふくしま）
住所:福島市山口字宮脇98
TEL :024-531-8411　FAX:024-534-8800



ホームページ

「ふくサポ通信」の発行回数が変わります！

ふくサポ通信はこれまで年６回発行していましたが、業務内容の見直しとふくサポをより充実した施設とするため、年４回（5・8・11・2月末）に変わります。

助成金などの情報はリニューアルするHPに随時掲載していく予定です。

発行回数が変わってもみなさんに愛されるふくサポ通信を目指してまいりますので、引き続きご愛読をよろしくお願いいたします。

「福島市発！お互いさまチケット、全国へ広がる」

皆さんは「お互いさまチケット」の取り組みをご存じでしょうか？お互いさまチケットは、まだ見ぬ誰かのためにチケットを購入することで、チケットを利用する方が無料で食事ができたり、サービスを受けることができる仕組みのことです。

今、福島市から始まったのこの仕組みが全国で注目されています。発信元となったNPO法人チームふくしまの理事長半田真仁さんにインタビューをしてみました。

Q&A

Q1. お互いさまチケットを始めたきっかけを教えてください。

A1. 弊法人の副理事長を務めていた故・吉成洋拍が、ソーシャルワーカーの話を聞く中で福島で困っている子どもがいることを知り、できることはないか考えたことが始まりです。アメリカの映画「ペイ・フォワード」の着想を得て、また、吉成が東日本大震災発生当時から炊き出しを行っており、その中である女性と出会ったことがきっかけでお互いさまチケット等のアイデアが生まれ、吉成が経営していたハンバーガーショップにて導入されました。

更にお互いさまチケットを福島市近郊で100ヶ所導入することで、福島が同情の街ではなく、お互いさまの街・尊敬されるような街ふくしまになることを目指しました。導入店舗を増やすことで、子ども食堂が増え、子ども達が貧困関係なく食事などをとれるようになります。

Q2. お互いさまチケット事業を始めて手ごたえを感じた瞬間を教えてください。

A2. お互いさまチケットを通じて雇用創出や子ども食堂化、業種を問わず導入できることが広がる中で分かってきたときです。次世代の方々がお互いさまチケットに関心を寄せているところですね。

Q3. お互いさまチケットの推移（広がり）を教えてください。

A3. お互いさまチケットの導入件数は全国では、宮城県を含めた12都道府県で18か所です。ほかに51社連合で導入された県もあります。 また、台湾でも2カ所導入されました。今夏、福島県内で20カ所開所予定です。

導入種類もはじめは飲食でしたが、飲食店以外の業種でもお互いさまチケットが導入されています。例えば、タイヤ交換、託児所、美容室、子ども食堂、整骨院、高齢者デイサービス等様々です。

Q4. お互いさまチケットを取り入れている福島市内の数、福島県内の数を教えてください。

A4. 福島市内は２２ヶ所 、福島県内は46ヶ所です。

Q5. 全国でお互いさまチケット制度の広がりが見られますが、今、感じていることを教えてください。

A5. 日本人がもともと持っているお互いさまの精神を、お互いさまチケットを通じて広まっているように感じます。また、最近恩送りやペイフォワードの関心が向いてきているように感じます。弊法人の副理事長を務めた吉成洋拍の想いが福島をはじめとして全国で広まってきていることを有難く感じております。

Q6. 今後の目標や計画を教えてください。

A6. 福島市近郊でお互いさまチケット100ヶ所導入を目標に「お互いさまの街ふくしま」につなげ、その制度を東日本大震災から応援してくださった皆様の次世代に恩送りさせていただきます。

【チケットが配置された飲食店の様子

企業からNPO法人へ寄付金の贈呈

【寄付金が贈られる様子】

3月下旬ふくサポ会議室において（株）花の店サトウからNPO法人黒猫すずの家へ寄付金が贈呈されました。

猫好きである花の店サトウの佐藤氏は、2月22日「ニャン・ニャン・ニャン」の「猫の日」に合わせて、猫の保護活動をしているNPOを支援するための募金箱を設置し、「猫の日チャリティーブーケ販売会」での収益の一部を寄付しました。

【チャリティーブーケの数々】

ブーケ販売会では、来店客へ猫の保護活動について周知するとともに、黒猫すずの家から猫を引き取った方や、ペットの誕生祝いとしてブーケを購入するなどといった愛猫家が多く訪れ、猫への愛と理解を深めたとのことです。

贈呈先の黒猫すずの家代表の大内さんは長年猫の保護活動をされています。保健所等からの依頼で、野良猫を捕獲して不妊手術を受けさせたり、「ひだまりねこ譲渡会」に交じり、法人で管理している猫も譲渡会に参加させています。譲渡先が決まってからも、3回は里親先へ訪問するそうです。

大内さんは猫を飼うにあたり「①不妊手術を必ずすること」「②室内で飼育すること」「③終生飼養すること」の３つを推奨しています。飼い主のためだけでなく猫にとっても病気や事故のリスクを避けるためとのことです。今後は飼い猫教室等を実施し、更に適正飼育の普及啓発活動を続けていくと熱い思いを話されました。

このように、様々なセクターが垣根を越えて協力することで、より一層成果を発揮し、社会課題を解決できる活動をふくサポは今後も応援していまいります。

『㈱花の店サトウ・本店（こすもす店）』
福島市笹谷字前谷地3-5
TEL：024-558-9350

NPO法人『黒猫すずの家』
（理事長　大内 美由紀）
https://www.koronekosuzunoie.com

☆ふかちゃんのつぶやき☆

ゴミという資源

地球温暖化が叫ばれる中、日本では国土が狭いという理由でゴミの77%を焼却、残念ながら世界ナンバー１だそうだ。その「燃やすゴミ」の40%は生ゴミでその重量の80%が水分である。「燃やしにくいゴミ」のため自治体によっては、せっかく分別回収したプラスチックごみを燃焼剤代わりに加えて炉の温度を上げているところもあるという。ところがお隣の韓国では国全体で、「生ごみは宝」「生ごみは資源」と呼びかけ、生ごみの分別回収に20年以上も前から取り組み、燃やすのではなく発酵させて堆肥・動物飼料・バイオ燃料の三つにリサイクル、食品廃棄物のリサイクル率95%を達成しているという。

「混ぜればゴミ、分ければ資源」は有名な標語。もしすべてのゴミが誰もズルせず適切に分別されれば、それらはすべて資源として有効活用できる。ちょっと前の話だが、日本のある地区で、古くなった焼却炉を新調する費用を工面できず、ゴミの全てを分別することにしたと聞いた。住民の結束と意識によって何十種類にも分類されたゴミは全て売却。経済的な需給による売値の関係で売っても赤字になるゴミもあるが、トータルでは黒字になったという。地球温暖化や地球資源活用の観点だけでなく、そもそも焼却していれば多大な費用が掛かるわけだから、素晴らしい成果だ。

発酵と腐敗、生化学では共に「酸素のない状態で炭水化物からエネルギーを取り出すこと」と定義されている。私たちも、発酵を利用した「納豆や漬物やお酒」だけでなく、まずは、ゴミとされる腐敗も韓国のように資源として利用するという強い意志を持ちたい。さらに、全てのゴミは資源になることを認識し、そのためにできることを進んで行うコミュニティにしていきたいと思うのだが、如何ですかな？

～ふくサポ　おすすめの逸品～

～Part25～

【焼き菓子などを製造する作業場】

JR金谷川駅近くにあります「笹森の郷」は、NPO法人南茶和が運営する就労継続支援B型事業所です。約20名の利用者さんが焼き菓子の製造やアパート清掃、ネギを中心とした野菜の生産や園芸など、それぞれの適性や希望に合わせて作業を行っています。

この施設のサービス管理責任者で管理栄養士の後藤祥与さんにお話を伺いました。

【利用者さんの作業場の様子】

震災直後にはじめられたというこちらの施設は、もともと養鶏場を営んでおり、卵料理を提供するカフェとして営業されていたそうですが、コロナの影響でお店はクローズ。その後お弁当や卵を使ったお菓子の製造・販売などを行ってきましたが、鶏の餌代の高騰が続いたことにより養鶏場も厳しい状況となりました。

現在は、地物を中心に直営農場で収穫した野菜や近くの農家さんの米粉などを活かした焼き菓子を製造・販売しています。

【人気の焼き菓子ラインナップ】

一番人気の「米粉スノーボール」141円（税込）は、あっさりとした口溶けのあと、アーモンドパウダーとバターの香りが口いっぱいに広がり、思わず顔がほころんでしまう逸品です。また、ジャガイモと米粉を使った「ポテトスティック」220円（税込）は、硬めの歯ごたえが心地よく、ジャガイモの風味に胡椒が効いたスパイシーな味が後を引きます。ほかにも、ザクザク食感に荒く砕いたアーモンドが香ばしい米粉のクッキー（チョコ＆ナッツ）130円（税込）など、どれもお値打ち価格なのも魅力的です。

これらの商品はいちい蓬莱店とフォーズマーケットで購入できるほか、電話やFAXで注文して購入することもできます。また、配達も可能ですので詳しくは下記までお問い合わせください。

「たくさんの商品がある中で、埋もれてしまわないよう特徴を出していきたい。試行錯誤しながら試作を繰り返しています。」と後藤さん。いくつもの困難を乗り越えながら生み出された他にはない「福島の味」を皆さんもぜひご賞味ください！

«お問い合わせ先»

笹森の郷

住所：福島市松川町関谷字大窪47
TEL／FAX：024-573-8400
営業時間：8:00～17:00
定休日：日曜・月曜

編集後記

- 最近、春と秋が短くなったと感じるのは私だけではないでしょう。もう猛暑です。　（ふかちゃん）
- うぐいすの声、薫風と共に。清々しい気持ちを忘れず今年度も参ります。　（まさお）
- 暑い！肌寒い！眠れない！寝不足の日々に終わりはくるのか？！　（マータン）
- うっとうしい季節が来る前に、青葉や若葉が生い茂るさわやかな季節を堪能たいです。　（みー）
- 早くも暑さにやられてヘロヘロ　（井）
- 「紫陽花や　昨日の誠　今日の嘘」　（な）
- スープジャーの進化に感動。新しいの買ってよかったです。　（優）

福島市市民活動サポートセンター「ふくサポ通信」2024 Summer vol.114

発行日／2024年 5月31日　　編集／認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター
発行／福島市市民活動サポートセンター　〒960-8041 福島市大町4-15 チェンバおおまち3階
TEL 024-526-4533　FAX 024-526-4560 URL http://www.f-ssc.jp　MAIL f-ssc@bz01.plala.or.jp